

## 第31回議会報告会「市民参加型フォーラム」

日時	令和2年2月1日(土) 午後1時30分～午後4時
場所	中央公民館1階大会議室
実施内容	課題共有型円卓会議 テーマ「市民と議会がつながるには」

### パネリストから出された主な意見

- ・知立市議会が抱える課題 ①市民に議会を知ってもらうには  
②市民にとって身近な議会になるためには

(市議会パネリスト)

・可児市議会の取り組みについて 市民との交流、各種団体・子育て世代との意見交換、市民アンケート、若い世代との交流など行っている。催しとして「ママさん議会」、「高校生議会」、「子ども議会」などを開催。

・新城市議会の取り組みについて、会派はなく、委員会が中心で、身近で市民が関心のあるテーマで座談会を実施。議会が出向くことが重要。

若者議会を実施し、そこで出された政策に1000万円の予算をつけて実現した経緯がある。自分たちのまちをどうしていきたいかがテーマ。若い人がまちづくりに参加してもらうためにはきっかけが必要と考えている。

SNSの活用。

(市民パネリスト)

・議会には、興味がない。期待感がない。好感がもてない。一般質問では、確認質問ではなく提案型で、詰め寄る問題提起が必要。地方議会は、課題にきめ細かく対応しなければならない。

・議会に興味がない。主婦には、日々の家事や仕事、学校行事、地域の付き合いがあり、考えている時間がない。議会の活動、議員のことを知る方法を教えてほしい。

・ずっと知立に住んでいるのに、政治や議会のことを知らないことが多かった。若い人に議会を知ってもらうには、中学校等に議員が出向いて、市外に出ていく年代になる前に授業で政治について学ぶ必要がある。中学3年生に直接話す機会を持つといいのでは。

## 市民と議会がつながるには（市民グループ討議で出された意見）

- 市民と議員が接点を持つことが重要。  
議員自らもっと地域へ出ていく、飛び込む  
多様な意見を聞く
- 議会の仕組みや活動を伝える  
学校の教材にする  
主権者教育の実施を希望  
出前講座の活用推進
- 議員の働く姿を見せる機会を増やす  
議会改革に市民の参加を求めていく  
地域において情報を共有できる体制の確立
- 政策という成果  
実行可能な議論が重要  
テーマを絞って時間（期間）を設定し、全体で取り組むことが必要  
ビジョンを持って努力を重ねることが大切

## 市民と議会がつながるには（パネリストの意見、土山教授の意見）

- 何を課題として地域に投げかけるのかを明確にする。地域や個人からの課題をいかに議会として取り組んでいくかが重要。
- 市民は、個人的な依頼を議員にしていいのかわからない中であって、行政は相談に乗ってくれそうに感じている。
- 新しい公共をつくっていくのは市民と議会であって市民と行政ではない。議会は市民の代表。議員が気づかない部分を市民が遠慮なく声に出してもらえるようにすることが重要。
- 声を出してほしい、声を聞きに来てほしい、個人の意見かどうかを判断するのは議会が行う。
- 一方的に声を聞くとなると、政策を議題として取り上げてもらうための要望事項になってしまうので、議会の活動を見てもらい、議会側から市民の活動を見に行くことで、声を聞く前に、市民と議会の接点を持つとよいのでは。

・現場の活動を見てもらうことが重要。若者議会、中学生議会が接点をもつ場になっている。

・議会としてのビジョンを持つことが重要ではないか。自分たちのまちのために何をしてくれるのかが求められている。それに対しての成果が出ると市民が実感を持つし、議会に興味を持つことにつながる。議員が個人のビジョンは持っているが、議会としてのビジョンを持っていないのでビジョンを持って公表することも必要ではないか。

・議会ができることは限られているので、議会はきっかけづくりとしての活動をし、NPOや行政などいろいろな組織に担ってもらい、市民力、団体力で補っていくことが理想。

・興味のない方にいかに興味をもってもらうか 分かりやすいキャッチコピーをメディアで伝えていくことが大事。

・議会と市民が、一方的でなく、どのように双方でコミュニケーションをとっていくのかを今後考えていくといいと思う。

・市民と議員との接点を積極的に活用していきたい。

・議員は市民代表として頑張ってきたつもりだが、それが市民にまだまだ響いていないと言える。市民の求めているものと違う部分があったのではないか。現在進めている議会改革が市民のためになっているのか、疑問も持っている。

